

平成4年度市内遺跡
発掘調査報告書

1993

新潟市教育委員会

例 言

1. 本書は平成4年度に国庫補助金・県費補助金を受けて実施した「新潟市内遺跡発掘調査」の報告書である。
2. 調査は新潟市教育委員会が主体となり生涯学習課が主管した。
3. 調査で得た資料は新潟市教育委員会が一括して保管している。
4. 事前協議・現地調査から本書の作成に至るまで、多くの方々・機関よりご指導・ご協力をいただいた。

目 次

I 新潟市域の遺跡概要	1
II 平成4年度調査概要	3
1. 管内調査概要	3
2. 試掘調査概要	5
1) 緒立城館跡	5
2) 荒所A遺跡	6
3) 丸山遺跡	6
4) 小丸山遺跡	7
5) 古屋敷遺跡	8
6) 観音原遺跡	8

調査体制

調査主体 新潟市教育委員会（教育長 石井 淳）

総 括 太田 義昭（生涯学習課長）

事務担当 皆川 泰男（生涯学習課文化財係長）

調査担当 本間 桂吉（生涯学習課主事）

調査員 大森 豊（同）・小池 邦明（同）・板倉伝三郎（同嘱託）・野村 政美（同）

作業員 調査地の地元の方々

I 新潟市域の遺跡概要

新潟市は信濃川・阿賀野川の河口部に位置している。市域の地形はある時期の海岸線を示す10数列の砂丘列と砂丘間低地からなっている。砂丘間低地には砂丘列によって流路をさえぎられた河川が蛇行を繰り返した跡である自然堤防が散在するほかは潟湖などの低湿地が広がっている。また、市域は地盤沈下が著しいため、標高の低い砂丘列や砂丘裾部は自然堤防を始めとする河川堆積物に覆われている部分が多い。

市域の遺跡は現在約100ヵ所確認されており、すべて砂丘列と自然堤防上に位置している。

遺跡の年代的出現は砂丘列の形成と関連しており、内陸の大江山・赤塚地区の砂丘列（新砂丘Ⅰ）では縄文時代中期以降の遺跡が、石山・濁川地区の砂丘列（新砂丘Ⅱ）では縄文時代晩期以降の遺跡が、現海岸砂丘列（新砂丘Ⅲ）では奈良時代以降の遺跡が確認されている。

縄文時代の遺跡は10数ヵ所あるが、いずれも石鏃を主体とする石器が少量出土しているのみで土器はほとんど出土していない。このため、いずれも集落ではなく狩猟の場であったと考えられる。この状態は弥生時代後期まで継続するようである。

弥生時代・古墳時代の遺跡はそれぞれ数ヵ所あり、いずれも集落跡と見られるが、弥生時代後期・古墳時代前期にややまとまった資料があるほかは断片的である。

奈良時代に入ると、古墳時代中期～後期にわたって農業生産性の低さからか遺跡がほとんど営まれなかったと認められる市域に突如10数ヶ所の大規模な遺跡が営まれるようになる。

平安時代には60数遺跡と遺跡数は急増するが、奈良時代の遺跡と比べて規模が小さくなる。

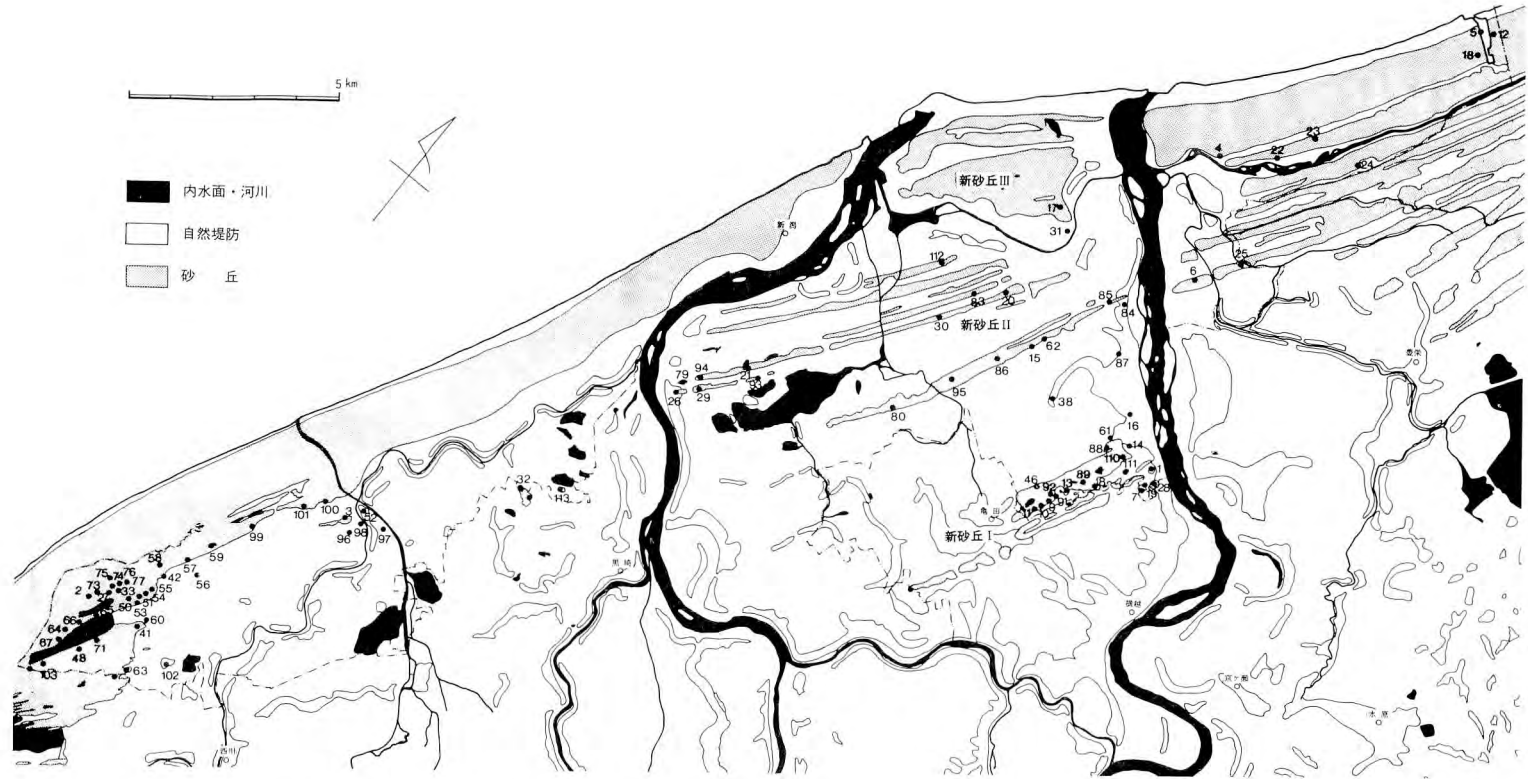
中世の遺跡も50数遺跡と数は多いが、資料は断片的で詳細は不明である。

遺跡が立地する微高地は、近世以来市街化・集落化している部分が多いため遺跡の発見が困難で、市街化・集落化していない部分の多くは開畑や砂丘間低地を乾田化するためなどの砂取りによって削平が進んでおり、遺跡の遺存状態は良くない。また、海岸部の砂丘列（標高10数m～50数m）は、その堆積砂の厚さから大規模な掘削時以外には遺跡を発見できず、発見時にはその破壊が進んでいる場合が多い（注1）。さらに、前述の地理的要因から沖積面下（注2）に埋没したままの未周知の遺跡もまだあるものと考えられる。

なお、市域またはその周辺に設置されたと考えられる古代城柵官衙の淳足柵・越後城・沼垂城・蒲原津は、前述の遺跡の発見の困難さからか、いずれもその所在地を確認できていない。

注1 市域北東端の奈良時代の製塩遺跡（東港太郎代遺跡：Na5・出山遺跡：Na12）は港湾開削時に砂丘を約10m掘り下げた段階で発見され、遺存部分が緊急発掘調査された。

注2 耕作により水田下より備蓄銭が出土する例（Na104～107）や遺跡の大部分が沖積面下に埋没していた的場遺跡（Na113）の例などがある。



遺跡No	名称	時代
1	中山	縄文・古墳～平安
2	荒所A	縄文
3	六地山	弥生・奈良・平安・鎌倉
4	神谷内	奈良・平安
5	東郷太郎代	奈良・平安
6	新崎	奈良平安
7	笹山前	縄文・弥生・奈良・平安
8	若谷谷	奈良・平安
9	彦七山	奈良・平安
10	金塚山	奈良・平安
11	前山	奈良・平安
12	出山	奈良・平安・鎌倉・江戸
13	丸山	平安
14	直り山A	平安
15	猿ヶ馬場A	平安・室町
16	大瀬	平安
17	居瀬	平安
18	サツ化学前	平安
19	神明社裏	平安
20	寺山	平安

遺跡No	名称	時代
21	親仁山	平安・中世
22	向山	古墳?・平安
23	横山	平安
24	上船橋	平安
25	薬上山	平安
26	上中	中世
27	赤塚神明社	平安
28	城山	古墳・平安・鎌倉
29	地蔵山	鎌倉・室町
30	竹尾	中世
31	吉屋敷	室町・江戸
32	竪立城跡	室町・安土桃山
33	神山	縄文
34	欠番No.31内	
35	宮浦	平安
36	瀬池	平安
37	野山	平安
38	西野	平安
39	庚塚	平安
40	観音原	平安

遺跡No	名称	時代
41	大敷	奈良～室町
42	木山	平安・鎌倉
43	赤塚	古墳?
44	土塚	中世?
45	大敷塚	鎌倉・室町
46	北山	平安
47	細山石	室町
48	北浦原A	平安
49	石ナグ山	平安
50	屋敷	弥生・奈良・平安
51	屋敷	平安
52	高山	平安
53	前田	平安～室町
54	茶畑	縄文・平安
55	ヤマサキ	縄文・弥生・中世
56	伝念野毛	鎌倉・室町
57	渡瀬	奈良～室町
58	木山墓所	縄文
59	尾池	鎌倉・室町
60	観音原	縄文

遺跡No	名称	時代
61	直り山B	平安
62	猿ヶ馬場B	鎌倉・室町・江戸
63	坂田	平安・中世
64	上谷地A	平安
65	病院脇	平安
66	上谷地B	平安
67	沼	平安
68	欠番No.48内	
69	欠番No.48内	
70	欠番No.71内	
71	北浦原B	平安
72	欠番No.71内	
73	荒所B	平安
74	ツル子A	平安
75	吹荒地	平安
76	ツル子B	平安
77	ツル子4	縄文・平安
78	欠番No.41内	中世(古銭出土地)
79	鳥屋野	中世
80	石仏山	中世

遺跡No	名称	時代
81	法華塚	江戸?
82	津島屋の石仏	南北朝
83	竹尾	西平安
84	本所居館跡	室町
85	石助	古墳・平安・中世
86	下場	平安・中世
87	江口館跡	不明
88	小丸山	縄文・平安・中世・近世
89	若荷谷墓	平安
90	欠番No.13内	
91	清水が丘	平安
92	大浜外	平安・中世
93	女池稲荷	平安
94	覺守の塚	中・近世?
95	石山の石仏	中世
96	成田	中世
97	前田	中世
98	高山	西中世
99	沼	下中世・近世
100	内野高塚A	中世

遺跡No	名称	時代
101	内野高塚B	中世
102	藤蔵新田	中世
103	原村	平安
104		中世(古銭出土地)
105		中世(古銭出土地)
106		中世(古銭出土地)
107		中世(古銭出土地)
108	南浦原	縄文～近世
109	岡山の石仏	中世
110	松山	中世
111	松山向山	平安
112	山木山	古墳・平安・中世
113	的場	縄文晩期～中世

第1図 遺跡の分布と地形概念 (1:175,000)

II 平成4年度調査概要

1. 管内調査概要

同年度は試掘調査8件、立ち会い調査16件、分布調査・踏査24件の計48件を調査した。

試掘調査は、緒立城館跡・荒所A遺跡・丸山遺跡・小丸山遺跡・古屋敷遺跡・観音原遺跡で実施した。小丸山遺跡では平安時代の掘立柱建物の柱穴と見られる遺構と遺物包含層が遺存していることが確認されたが、他の調査ではいずれも遺構・遺物包含層等は遺存しておらず、工事は着工された。2章にその概要を記す。

立ち会い調査は下水工事・水道工事・砂取り・個人宅造等に伴って16件実施したが、遺物包含層・遺構等は確認されず、工事は継続された。

分布調査は埋蔵文化財包蔵地の周知範囲外で、ゴルフ場などの大規模開発に対して3件実施したほか、試掘調査・立ち会い調査の事前踏査として計24件実施している。

遺跡番号 遺跡名	調査原因 届出・通知等年月日	届出・通知地番 面積	調査区分 調査期間	調査結果・遺跡の取扱い
32 緒立城館跡	県道 3.11.13 57条の3 ゴルフ練習場 4.2.21 57条の2	小新字尾立4,101-4 ほか 34,020㎡ 小新字尾立4,095 ほか 54,000㎡	試掘調査 4.10・13・ 14	遺物・遺構とも確認され なかった。慎重工事
2 荒所A	農道 3.7.2 57条の3	山崎字下荒所6,200 ほか 1,200㎡	試掘調査 4.20～22	遺物・遺構とも確認され なかった。慎重工事。
13 丸山	個人住宅 4.4.14 57条の2	丸山ノ内善之丞組字前郷435 816㎡	試掘調査 4.30	遺物・遺構とも確認され なかった。慎重工事。
88 小丸山	個人住宅 4.5.14 57条の2	直り山字小丸山966-1 252㎡	試掘調査 6.16～19	平安・近世の包含層・遺 構確認。後日立会調査。
31 古屋敷	個人住宅 4.7.17 57条の2	松崎字西654-2 ほか 499㎡	試掘調査 4.7.22	遺物・遺構とも確認され なかった。慎重工事。
13 丸山	県道 3.11.8 57条の3 学校体育館・プール 4.10.16 57条の3	丸山ノ内善之丞組字浦郷 584-1 ほか 88,020㎡ 丸山ノ善之丞組字前郷300 1,650㎡	試掘調査 10.27・28	遺物・遺構とも確認され なかった。慎重工事。
32 緒立城館跡	宅地 事前協議	小新字尾立4,107 ほか 10,000㎡	試掘調査 3.8～10	遺物・遺構とも確認され なかった。慎重工事。
60 観音原	県道 3.11.13 57条の3	赤塚字土江外2,048 ほか 26,560㎡	試掘調査 3.20～22	遺物・遺構とも確認され なかった。慎重工事。
4 神谷内	砂採取 4.7.17 57条の2	神谷内字居浦330-1 10,648㎡	立会調査 8.13	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
10 前山	個人住宅 2.8.9 57条の2	北山字前山342 186㎡	立会調査 8.18	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
88 小丸山	個人住宅 4.5.14 57条の2	直り山字小丸山966-1 252㎡	立会調査 9.1	包含層に工事が及ばない ことを確認。工事継続。
35 宮浦	下水道 4.3.19 57条の3	河渡字宮浦郷 地先 1,340㎡	立会調査 9.1・9	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
86 下場	水道 4.9.1 57条の3	下場本町1-12 地先 228㎡	立会調査 9.9	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
85 石動	水道 4.9.5 57条の3	石動112地先 76㎡	立会調査 9.9	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
16 大淵	工場増築 4.6.3 57条の2	大淵字天神浦1,572-1 ほか 14㎡	立会調査 9.11.14	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
86 下場	下水道 4.8.12 57条の3	下場本町 213㎡	立会調査 9.25	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
85 石動	下水道 4.6.26 57条の3	石動 地先 920㎡	立会調査 9.25	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。

遺跡番号 遺跡名	調査原因 届出・通知等年月日	届出・通知地番 面積	調査区分 調査期間	調査結果・遺跡の取扱い
26 上中沢	学校プール 4.10.5 57条の3	鳥屋野3丁目1,307-2 ほか 1,958㎡	立会調査 10.6	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
49 石ナゲ山	砂採取 62.9.14 57条の2	赤塚字板藤6,447 ほか 164,586㎡	立会調査 10.14	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
112 山木戸	個人住宅 4.10.2 57条の2	山木戸4-16-22 9㎡	立会調査 11.2	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
11 前山	個人住宅 4.5.29 57条の2	北山字前山353 493㎡	立会調査 11.9	遺物包含層・遺構とも確 認されず、工事継続。
16 大淵	個人住宅 4.12.15 57条の2	大淵字天神浦1,279-2 69㎡	立会調査 2.4	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
30 竹尾	下水道 4.12.7 57条の3	紫竹7丁目 地先 751㎡	立会調査 2.17	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
41 大藪	下水道 4.12.3 57条の3	赤塚字大藪 地先 1,286㎡	立会調査 3.21	遺物・遺構とも確認され なかった。工事継続。
13 丸山	個人住宅 4.4.14 57条の2	丸山ノ内善之丞組字前郷435 816㎡	分布調査 4.15	過去に遺物採集。後日、 試掘調査を実施する。
99 道下	バスターミナル 事前協議	中権寺433 ほか 18,654㎡	分布調査 5.2	遺物の散布は認められな い。慎重工事。
88 小丸山	個人住宅 4.5.14 57条の2	直り山字小丸山966-1 252㎡	分布調査 5.14	過去に遺物採集。後日、 試掘調査を実施する。
(鳥見町)	コンクリート破砕場 4.9.10 調査依頼	鳥見町字船橋4,644-1 ほか 10,043㎡	分布調査 5.15	遺物の散布は認められな い。慎重工事。
13 丸山	県道 3.11.8 57条の3	丸山ノ内善之丞組字浦郷 584-1 ほか 88,020㎡	分布調査 5.28	過去に遺物採集。後日、 試掘調査を実施する。
11 前山	個人住宅 4.5.29 57条の2	北山字前山353 493㎡	分布調査 5.28	削平が著しい。後日、立 会調査を実施する。
16 大淵	工場 4.6.3 57条の2	大淵字天神浦1,572-1 ほか 14㎡	分布調査 6.3	隣接地で遺物採集。後日、 立会調査を実施する。
35 宮浦	下水道 4.3.19 57条の3	河渡字宮浦郷 地先 1340㎡	分布調査 6.15	遺物採集できず。後日、 立会調査を実施する。
85 石動	下水道 4.6.26 57条の3	石動 地先 920㎡	分布調査 6.30	隣接地で遺物採集。後日、 立会調査を実施する。
31 古屋敷	個人住宅 4.7.1 57条の2	松崎字西654-2 ほか 499㎡	分布調査 7.17	過去に遺物出土。後日、 試掘調査を実施する。
4 神谷内	砂取り 4.7.17 57条の2	神谷内字居浦330-1 10,648㎡	分布調査 7.23	過去に隣接地で遺物採集。 後日、立会調査を実施。
(鳥見町)	ゴルフ場 事前協議	鳥見町字荷替坂4,340 ほか 1,099,000㎡	分布調査 7.23	遺物の散布は認められな い。慎重工事。
86 下場	下水道 4.8.12 57条の3	下場本町 地先 213㎡	分布調査 8.18	遺物採集できず。後日、 立会調査を実施する。
10 金塚山	工事 4.9.18 57条の2	丸山字金塚223 ほか 1,523㎡	分布調査 9.22	遺物採集できず。5年度 に立会調査を実施予定。
84 本所居館跡	下水道 4.9.18 57条の3	本所 地内 280㎡	分布調査 9.22	遺物の散布は認められな い。慎重工事。
112 山木戸	個人住宅 4.10.2 57条の2	山木戸4-16-22 9㎡	分布調査 10.2	過去に隣接地で遺物採集。 後日、立会調査を実施。
(久蔵興野)	変電所 4.10.1 調査依頼	久蔵興野字下郷地257 ほか 2,500㎡	分布調査 10.5	遺物の散布は認められな い。慎重工事。
26 上中沢	学校プール 4.10.5 57条の3	鳥屋野3丁目1,307 ほか 1,958㎡	分布調査 10.5	過去に隣接地で遺物採集。 後日、試掘調査を実施。
25 築上山	学校プール 4.10.16 57条の3	新崎5437 858㎡	分布調査 10.20	遺物採集できず。5年度 に立会調査を実施予定。
13 丸山	学校体育館・プール 4.10.16 57条の3	丸山ノ内善之丞組字前郷300 1,650㎡	分布調査 10.20	過去に隣接地で遺物採集。 後日、試掘調査を実施。
41 大藪	下水道 4.12.3 57条の3	赤塚字大藪 地先 1,286㎡	分布調査 12.4	過去に隣接地で遺物採集。 後日、立会調査を実施。
84 本所居館跡	県道 事前協議	本所・江口 地先 69,000㎡	分布調査 12.10	遺物の散布は認められな い。慎重工事。
87 江口館跡	市道歩道 事前協議	本所・江口 地先 3,500㎡		
30 竹尾	下水道 4.12.7 57条の3	紫竹7丁目 地先 751㎡	分布調査 12.10	遺物の採集できず。後日、 立会調査を実施する。
16 大淵	個人住宅 4.12.15 57条の2	大淵字天神浦1,279-2 69㎡	分布調査 12.16	過去に隣接地で遺物採集。 後日、立会調査を実施。

2. 試掘調査概要

1) 緒立城館跡（第3図）

①遺跡の概要と調査に至る経緯 本遺跡は新潟市小新字尾立4097番地ほかの自然堤防上の宅地・畑地と沖積地（水田）に立地する堀と土塁を備えた方一町の単郭の城館跡として周知されていた。遺跡周辺は近年まで非常に低湿な（標高0 m以下）農村地帯で舟運を主要な交通手段としていた所であったが、昭和50年代以降の北陸高速自動車道・国道116号線新潟西バイパス等の開通により交通至便な土地として脚光を浴び、この数年間開発が急増してきている。

遺跡の発見と周知は昭和43年に行われた北陸高速自動車道建設に先立つ分布調査による。この際に、「航空写真を参考にしながら同地の調査に当たったが、緒立八幡宮から100メートル程離れた新潟市小新字尾立の大山祇神社と民家を含む120メートルほどの地域に土塁と濠に囲まれた中世の館跡を思わせる遺跡を発見した。緒立、亀貝道に面した大山祇神社側には往時の土塁の一部と堀の一部が残存して居り、その横に堀跡の一部も残存し裏は田んぼになっているが、航空写真で見ると、その田んぼには濠跡と見られる個所が黒く線をなしていることから館跡であることをつきとめた」（『新潟市1975』）という。

昭和48年には周知範囲南西隅が主要地方道新潟・燕線のバイパス建設に係ることとなったため、上原甲子郎氏を調査担当として市教育委員会主体で発掘調査が行われ、「濠の一部と考えられる部分」（『新潟市1975』）が検出されたものの遺物は出土せず、遺跡の性格・時代等は不明のまま現在に至っていた。

今回の調査は、周知範囲北側の水田でのゴルフ練習場建設と周知範囲南西隅（宅地部分）での主要地方道新潟・燕線（昭和48年一部発掘調査実施）の拡幅が計画されたことから、遺跡の範囲と性格等の確認を目的として実施することとなった。

②調査 調査は4月13・14日に、遺跡発見時に水田部分にあると言われていた堀跡の検出による遺跡範囲の確認を主目的として、また、周知範囲の東側隣接地についても開発予定地に隣接する黒崎町緒立C遺跡の開発範囲への広がりを確認できるよう試掘坑を設定して実施した。

宅地部分では、4月14日に主要地方道拡幅に係る周知範囲南西隅に1ヵ所、北西隅に2ヵ所の試掘坑を設定して人力で試掘調査したが、いずれも湧水のため人力では地表より1 m程度しか掘削できず遺跡の遺存状態等を明確にできなかったため、3月8～10日にバックホウを使用して補足調査を実施した。

なお、水田部分は地盤が非常に軟弱なためバックホウは鉄板の上で移動・稼働させ、試掘坑埋め戻しの際には表土下に数10cmの厚さで砂を敷くなどして耕作地盤の安定確保に努めた。

③調査結果と遺跡の取扱い 水田部分の試掘坑はガツボ（マコモ・アシ等の腐植）を多量に含む粘土・シルト層を主体とした軟弱な土層のみで、安定した地盤や遺物・遺構は確認されなかった。遺跡発見時に航空写真の観察から堀とされた部分は深さ約20cm、幅7～10m程のガツ

ボが自然堆積した谷地であり、水田部分にまで遺跡が広がっていないことを確認した。

また、宅地部分の調査でも近世～現代の遺物・遺構（土葬墓）しか確認できなかった。

以上の結果から、「緒立城館跡」は周知されていたような中世城館跡ではなく、近世に自然堤防上に営まれた集落であることが確認された。

この結果をもとに、県教育委員会と協議した結果、開発による埋蔵文化財への影響はないと判断され、県教育委員会から事業者あてに慎重に工事を実施するよう通知された。

2) ^{あらところ}荒所A遺跡（第4図）

①遺跡の概要と調査に至る経緯 本遺跡は新潟市山崎字下荒所6219甲ほかの標高8～15mの砂丘上に所在する縄文時代の遺物包含地として周知されており、過去に石鏃・石匙・縄文土器片が採集されている。

今回の調査は周知範囲西端から南側隣接地を巡る農道建設が計画されたため、事業主体者の県巻農地事務所と県教育委員会・市教育委員会との協議により、事前に遺跡の範囲・遺存状態等を確認するために試掘調査を実施することとなった。

②調査 4月20～22日に周知範囲西端の開発に係る部分を中心に、また、周知範囲の東方にも荒所B遺跡・赤塚神明社遺跡・ツル子A遺跡等が点在しているため、開発範囲東端に至るまで一定間隔で24ヵ所の2m×3m大の試掘坑を設定して調査した。

なお、周知範囲周辺では調査時に葉タバコを始めとする作付けが行われていたため、試掘坑の位置は開発範囲内に限定された。

③調査結果と遺跡の取扱い いずれの試掘坑からも遺物・遺構・遺物包含層は確認されず、開発範囲への遺跡の広がりには確認されなかった。

この調査結果をもとに、県教育委員会と協議した結果、開発の埋蔵文化財への影響はないと判断され、県教育委員会から事業者あてに慎重に工事を実施するよう通知された。

なお、市域の縄文時代の遺跡は石鏃等の少量の石器と微量な土器が出土するのみであることから、その性格は集落ではなく狩り場的なものであると考えられる例が多く、本遺跡もそのひとつと考えられる。

3) ^{まるやま}丸山遺跡（第5図）

①遺跡の概要と調査に至る経緯 本遺跡は丸山ノ内善之丞組字前郷435ほかの標高2m～6mの砂丘上の畑地・宅地に所在する平安時代の遺物包含地として周知されていた。平成元年度に行った周知範囲西側の工場増築時の立ち会い調査と平成3年度に行った周知範囲東側部分での試掘調査により、遺跡が立地する砂丘は過去の砂取りにより頂部が数m削平されているものの、砂丘裾部には遺構・遺物包含層が遺存している可能性があった。過去の採集遺物には土師

器・須恵器破片があり、平成3年度の調査では縄文土器片が1点出土している。

今回の調査は周知範囲南端（砂丘裾部）での木造個人住宅の建築と周知範囲北端（砂丘間低地）に隣接する小学校体育館・プールの建設及び遺跡周知範囲を南北に縦断する県道横越・新潟線の拡幅が計画されたため、事業主体者・県教育委員会と協議した結果、遺跡の遺存状況と埋蔵文化財への開発の影響を調査するために試掘調査を実施することとなった。

②調査 個人住宅に係る部分を4月30日に、小学校体育館・プール・県道に係る部分は10月27・28日に、砂丘斜面の高低方向に長い試掘坑を合計13ヵ所設定して、遺構・遺物包含層の遺存状況を調査した。

③調査結果と遺跡の取扱い 県道に係る部分では、3トレンチ（周知範囲南端、砂丘裾部）から土師器長甕破片・須恵器杯破片（第2図16～18）が出土したが、いずれも攪乱層から出土しており、本来の遺物包含層とは認められなかった。個人住宅・小学校体育館・プール予定地ではいずれの試掘坑からも遺構・遺物は確認されなかった。砂丘頂部は特に削平が進んでおり、表土（耕作土）直下は基盤砂層（明褐色砂）となっていた。砂丘裾部では削平が基盤砂層にまで及んでいない部分もあるが、遺物包含層・遺物は確認できなかった。

調査結果をもとに、県教育委員会と協議した結果、開発による埋蔵文化財への影響はないと判断され、県教育委員会から事業者あてに慎重に工事を実施するよう通知された。

4) 小丸山遺跡（第6図）

①遺跡の概要と調査に至る経緯 本遺跡は新潟市直り山字小丸山966番1ほかの砂丘上の畑地・竹藪に所在する平安時代の遺物包含地・集落跡として周知されている。遺跡が立地する砂丘は標高が低いいためその大部分が洪水堆積物に覆われており、遺存状態は良好である。

昭和61年には周知範囲西側が団地造成に先立って発掘調査され、平安時代の掘立柱建物・井戸・畑跡などの遺構や、緑釉陶器生地・須恵器・土師器・斎串など多量の遺物が出土している。

今回は周知範囲東側の砂丘頂部から南斜面にかけての部分で木造個人住宅の建築が計画されたため、遺跡の遺存状況と開発の影響を確認するために試掘調査を実施することとなった。

②調査 6月16日～19日に砂丘南斜面の高低方向に長い試掘坑（2m×3m大）を3ヵ所設定して遺構・遺物包含層の遺存状況を調査した。遺物包含層までの土層の除去にはバックホウを使用し、遺物包含層から遺構確認面までは人力で精査した。

③調査結果 いずれの試掘坑にも平安時代と近世の遺物包含層が良好な状態で遺存しており、北トレンチ（砂丘頂部側）からは平安時代の掘立柱建物の柱穴と見られる遺構が検出された。

④出土遺物 平安時代・近世の遺物出土量は平箱2箱ほどで、いずれの試掘坑からも出土している。なかでも北トレンチの遺構覆土から須恵器杯蓋（第2図1）が出土している。また、近世の遺物包含層から、ほぼ完形の焙烙（ほうろく）3個体（第2図13～15）が焼土と炭に混

じって出土したほか、陶磁器の破片・泥めんこ（第2図11・12）が若干ある。

⑤調査後の遺跡の取扱い 遺跡は良好な状態で遺存していたものの、開発による地面掘削（木造個人住宅基礎工事・上下水管設置工事）は遺構・遺物包含層の遺存している深度まで及ばず、埋蔵文化財に影響しないことが確認されたため本格調査は実施せず、住宅の基礎工事の際に市教育委員会職員が立ち会うことが、県教育委員会から事業者に対して通知された。

5) 古屋敷遺跡（第7図）

①遺跡の概要と調査に至る経緯 本遺跡は新潟市松崎字東500ほかの自然堤防上の畑地と水田に立地する室町・江戸時代の遺物包含地として周知されていた。過去の採集遺物には陶質土器片等があり、昭和60年には範囲等確認調査が実施されている。

今回の調査は周知範囲西端で木造個人住宅の建築が計画されたため、昭和60年に実施した範囲等確認調査の結果を補い、遺跡の遺存状況と埋蔵文化財への開発の影響を調査するため試掘調査を実施することとなった。

②調査 7月22日に、最も深く掘削される浄化槽設置部分に2m×4m大の試掘坑を1ヵ所設定してバックホウにより掘り下げ、遺構・遺物・遺物包含層の遺存状況を調査した。

③調査結果と調査後の遺跡の取扱い 遺構・遺物・遺物包含層は確認されなかった。調査地の層序は非常に軟弱なガツボ（マコモ・アシ等の腐植）層の上に粘土層・粗い青灰色砂（いずれも埋め土）となっており、開発範囲への遺跡の広がり確認できなかった。

調査結果をもとに、県教育委員会と協議した結果、開発による埋蔵文化財への影響はないと判断され、県教育委員会から事業者あてに慎重に工事を実施するよう通知された。

6) 観音原遺跡（第8図）

①遺跡の概要と調査に至る経緯 本遺跡は新潟市赤塚字土江外2048番地ほかの沖積地内の島状の畑地に立地する縄文時代の遺物散布地として周知されていた。過去の出土遺物には、道路工事の際に出土した磨製石斧がある。また、「赤塚村大字赤塚諏訪神社境内」（『真島1954』）は本周知範囲をさすものと考えられ、須恵器の採集が記録されている。

今回は、県道赤塚停車場・赤塚線の拡幅工事が周知範囲北側に係るため、遺跡の遺存状況と開発の遺跡への影響を確認するために試掘調査を実施することとなった。

②調査 平成5年3月22日～24日の3日間にわたって遺跡の状況を把握するため周知範囲全域に2m×5m大の試掘坑を合計10ヵ所設定してバックホウによって掘り下げ、遺物・遺構・遺物包含層の有無、土層の状況を調査した。

③調査結果と遺跡の取扱い 周知範囲北側から中央部の地表下0.3～3mに東西に延びる砂丘列と考えられる砂層が埋没しており、その上には腐植を含む粘土層と砂層（水田を畑にする

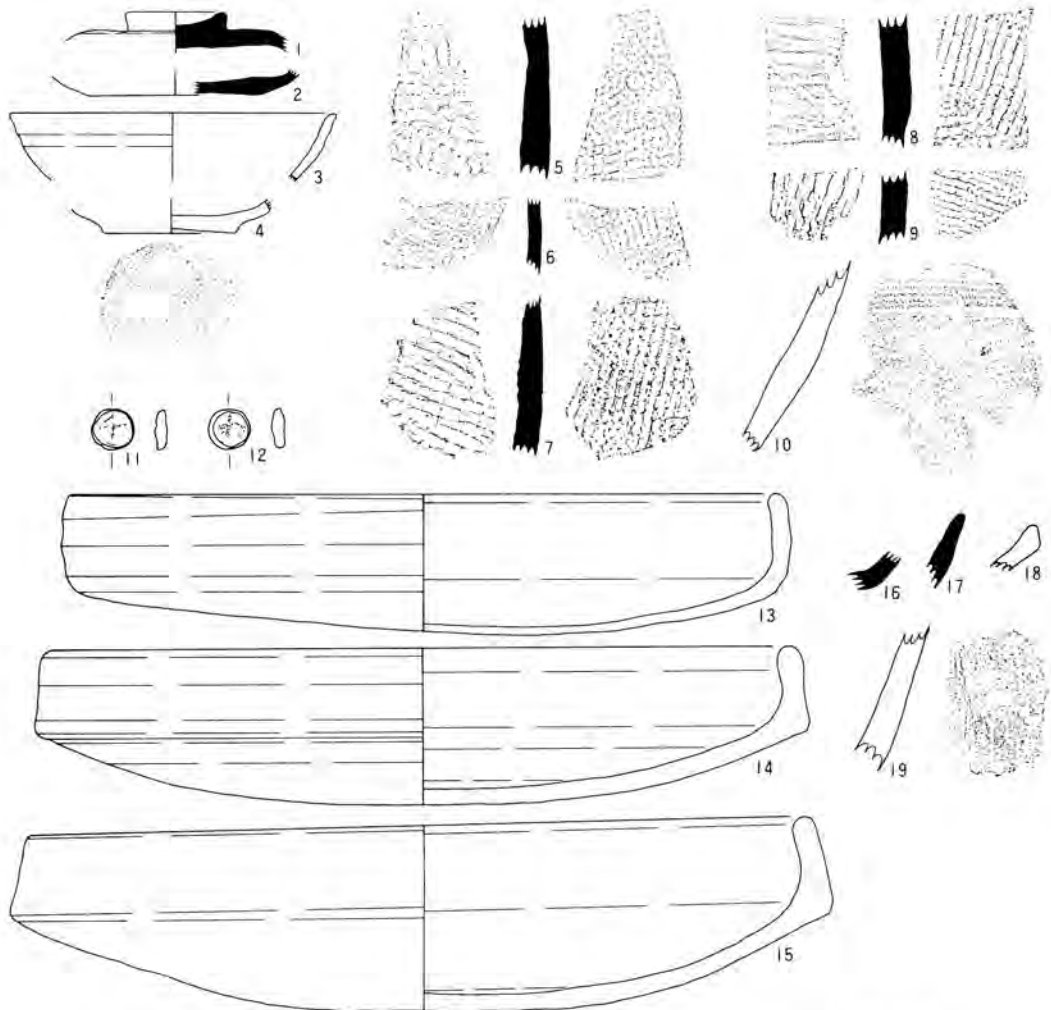
ための客土)が堆積していた。しかし、遺物・遺構・遺物包含層のいずれも検出されず、当該周知範囲には遺跡は存在しないことが確認された。

調査結果をもとに県教育委員会と協議した結果、事業は埋蔵文化財に影響を及ぼさないと判断され、事業者に対して慎重に工事を実施するよう県教育委員会から通知された。

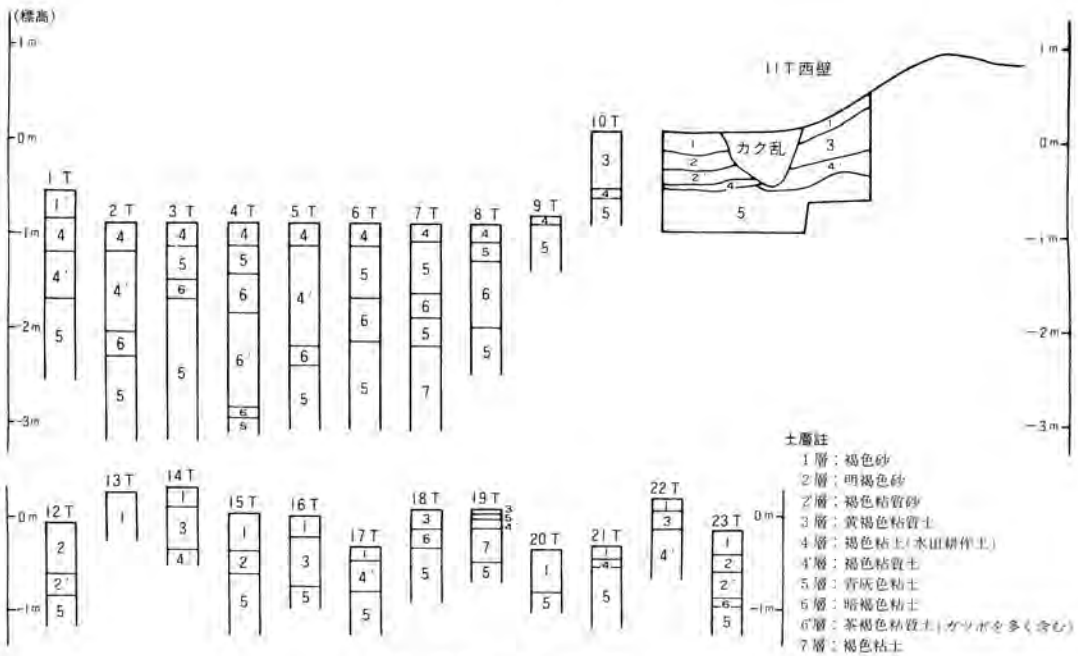
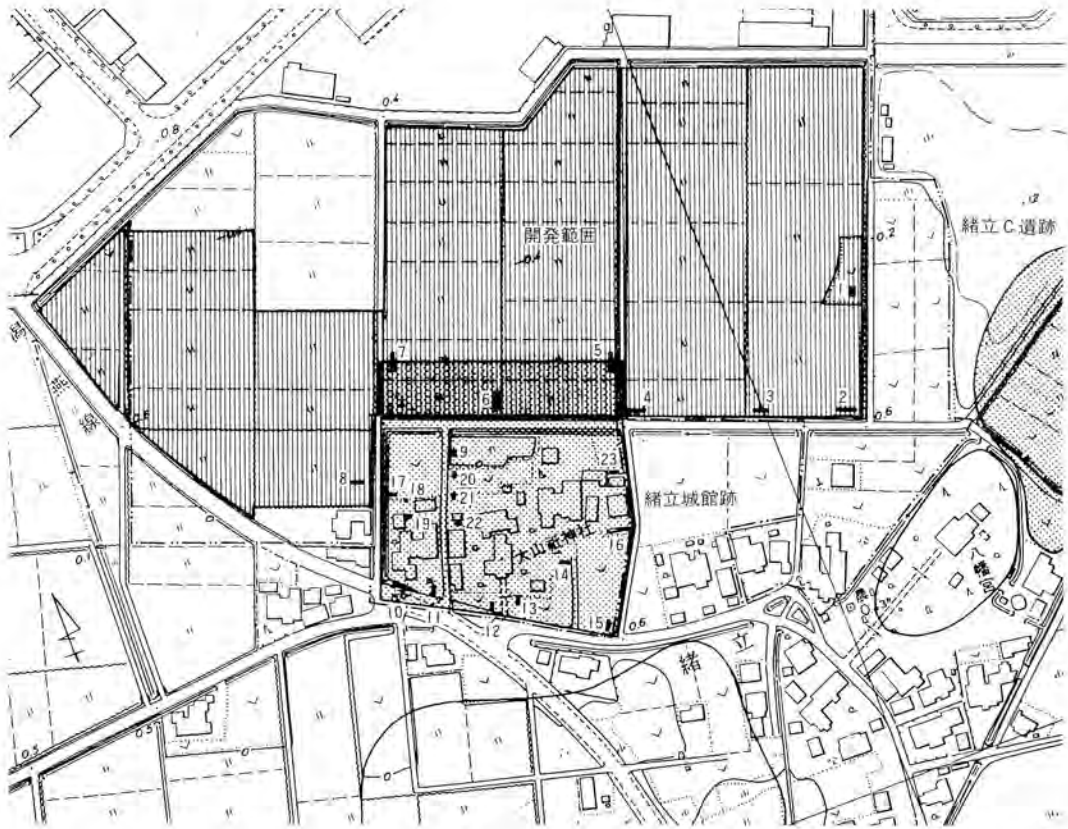
引用・関係文献

真島衛『西蒲原郡内遺跡地名表』第老報 真島衛 1954

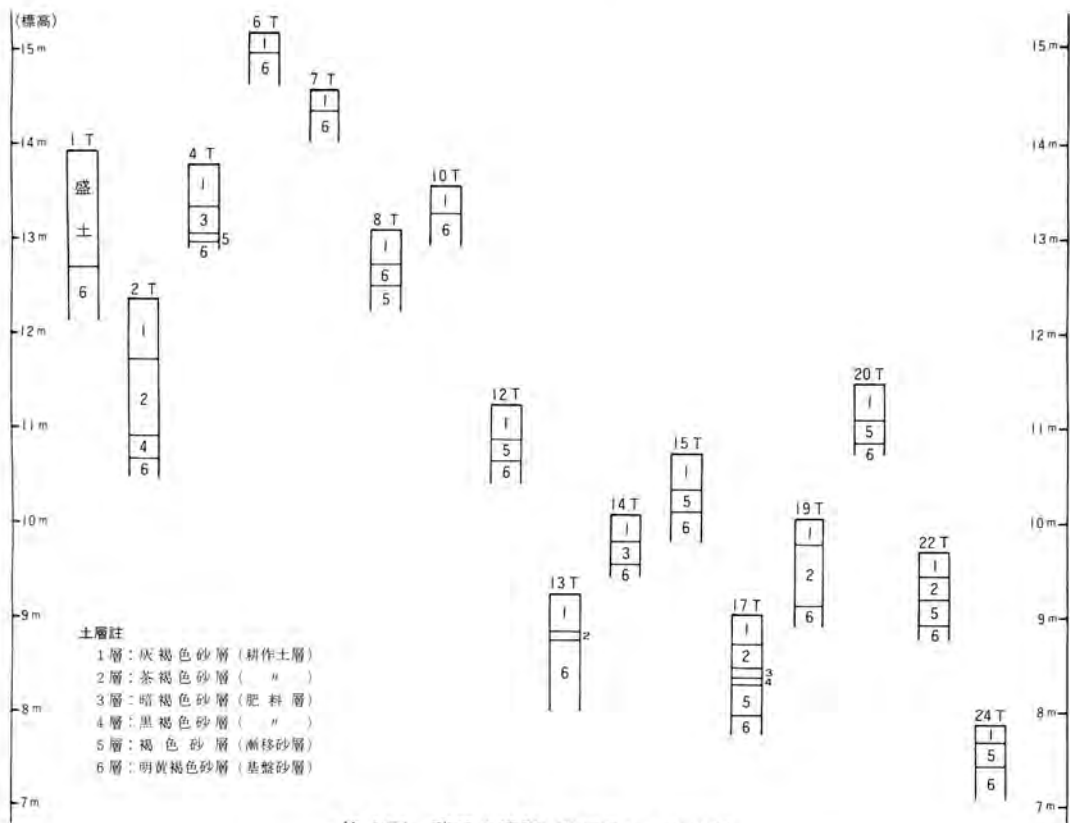
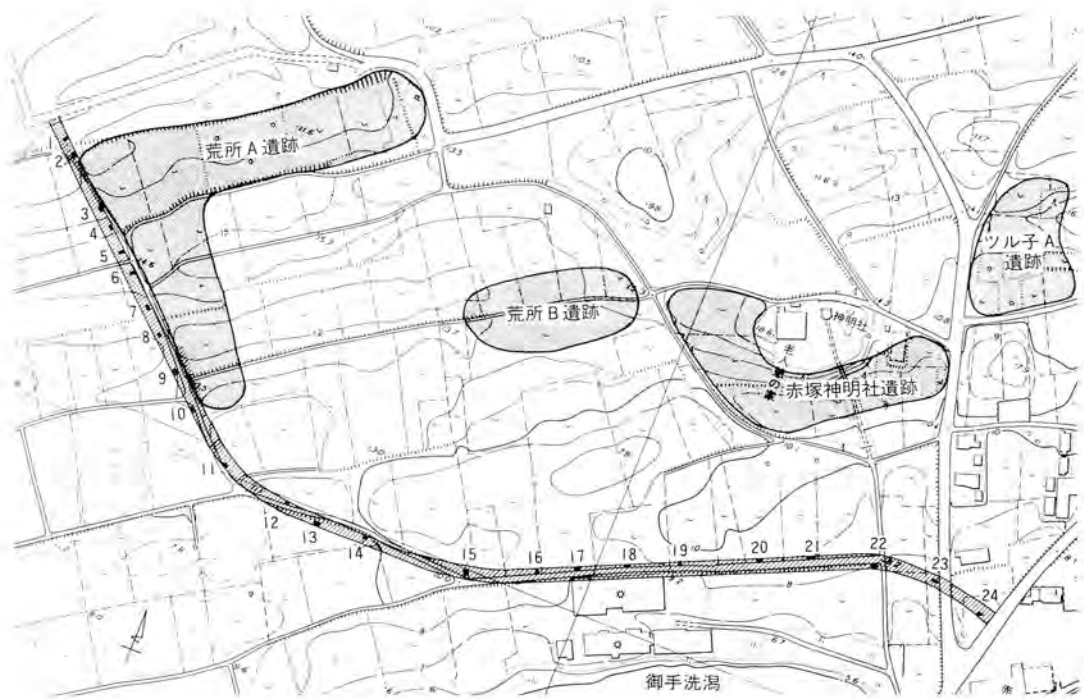
山下隆吉ほか「坂井輪村の歴史」『新潟市合併町村の歴史』第一巻 新潟市 1975



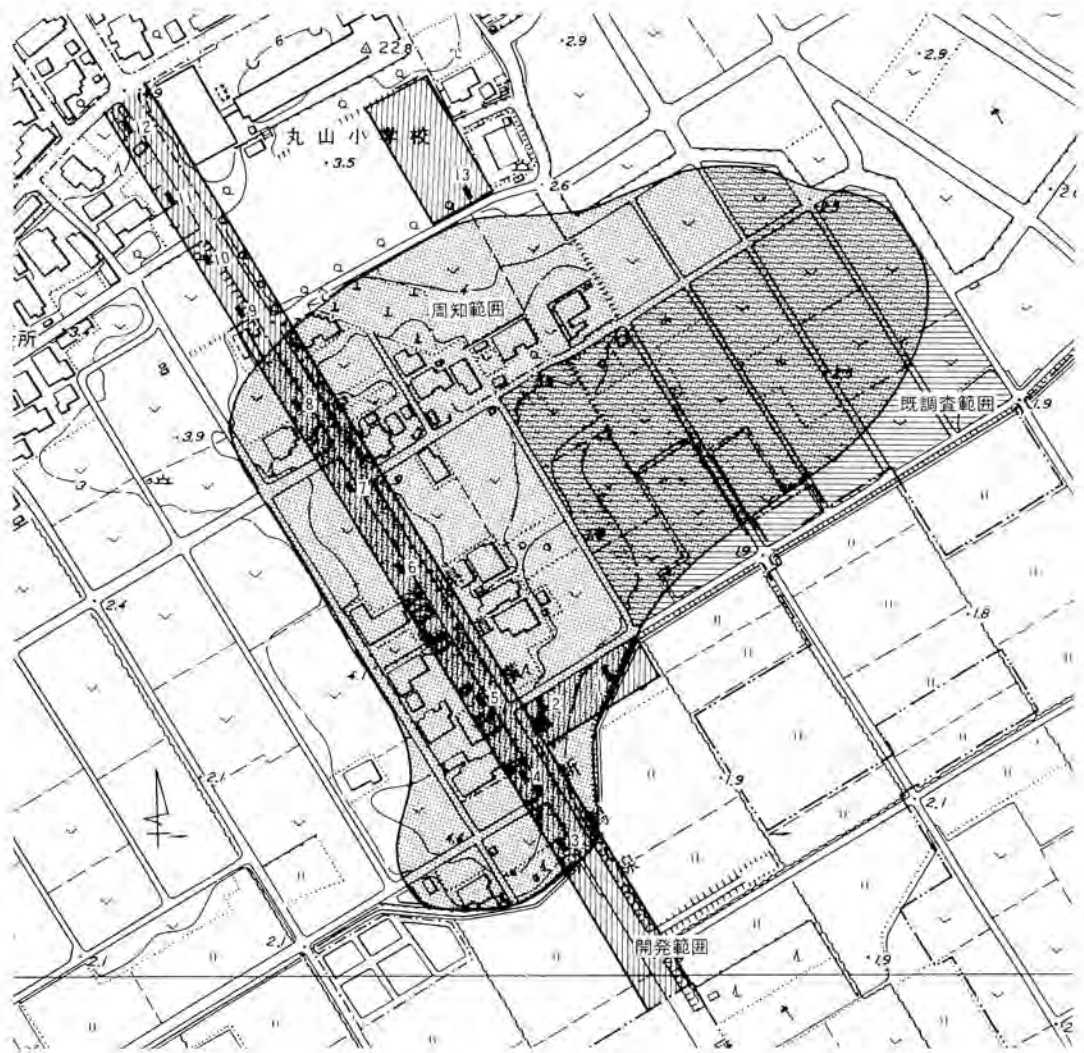
第2図 出土遺物 (S=1/3, 1~15: 小丸山遺跡, 16~18: 丸山遺跡3T, 19: 前山遺跡)



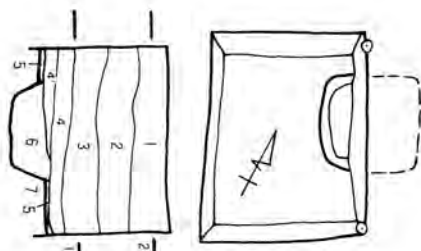
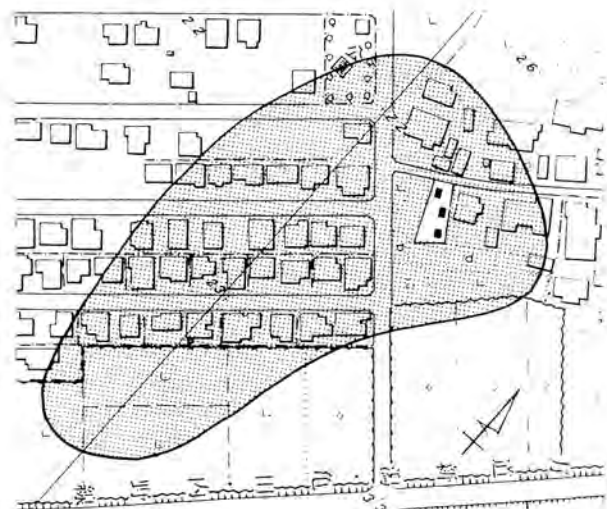
第3図 緒立城館跡 (位置図: 1/3,500)



第4図 荒所A遺跡（位置図：1/5,000）



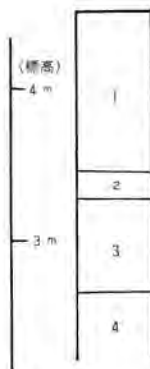
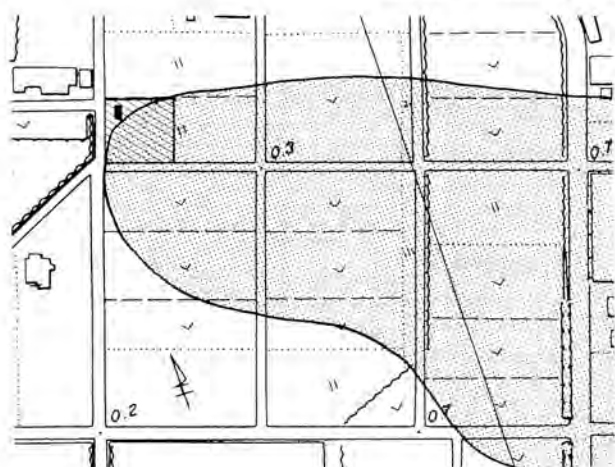
第5圖 丸山遺跡 (位置圖：1/2,500)



北トレンチ土層註

- 1層：盛土
- 2層：暗褐色土
- 3層：灰褐色粘質土(近世包含層)
- 4層：黒褐色粘質砂(平安包含層)
- 4層：褐色粘質砂(平安包含層)
- 5層：褐色砂(漸移層)
- 6層：暗褐色粘質砂(遺構覆土)
- 7層：明褐色砂(砂丘基盤)

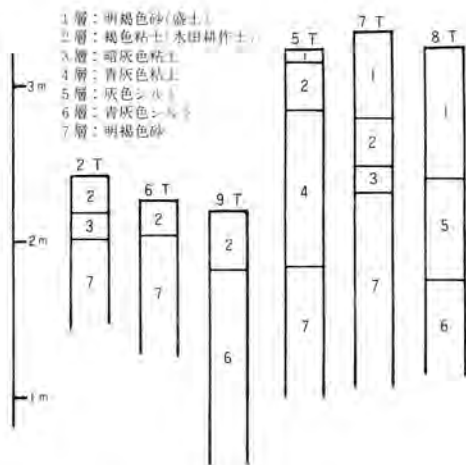
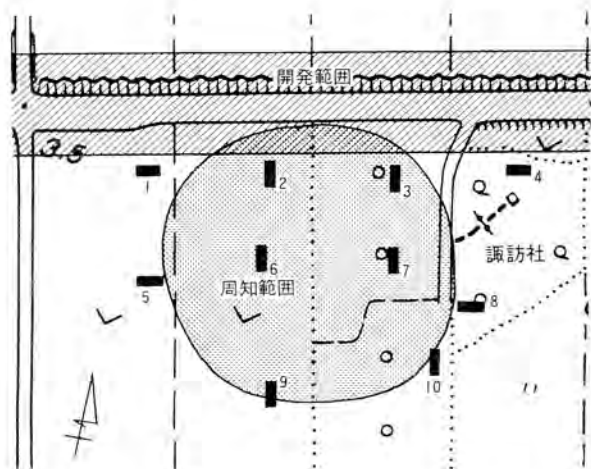
第6図 小丸山遺跡 (位置図：1/3,000)



土層註

- 1層：褐色砂(盛土)
- 2層：青灰色砂(盛土)
- 3層：青灰色粘土
- 4層：露地

第7図 古屋敷遺跡 (位置図：1/2,500)



- 1層：明褐色砂(盛土)
- 2層：褐色粘土(水田耕作土)
- 3層：暗褐色粘土
- 4層：青灰色粘土
- 5層：灰色シルト
- 6層：青灰色シルト
- 7層：明褐色砂

第8図 観音原遺跡 (位置図：1/1,500)



1 緒立城館跡遠景



2 緒立城館跡調査風景(「土塁」部分、11T)



3 緒立城館跡調査風景(宅地部分、17T)



4 緒立城館跡調査風景(水田部分、9T)



5 荒所A遺跡調査風景(10T)



6 荒所A遺跡調査風景(19T)



7 荒所A遺跡調査風景(13T)



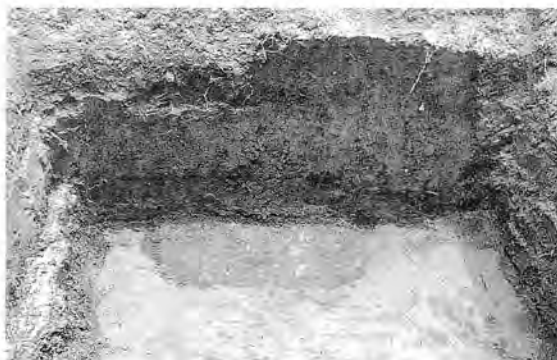
8 荒所A遺跡土層(10T)



9 小丸山遺跡調査風景



10 小丸山遺跡調査風景



11 小丸山遺跡遺構検出状況



12 小丸山遺跡遺構半截状況



13 小丸山遺跡出土遺物



14 小丸山遺跡出土遺物



15 古屋敷遺跡調査風景



16 古屋敷遺跡土層



17 丸山遺跡調査風景(宅造部分、1 T)



18 丸山遺跡調査風景(県道部分、3 T)



19 丸山遺跡土層(4 T)



20 丸山遺跡・前山遺跡(右)出土遺物



21 観音原遺跡調査風景(1 T)



22 観音原遺跡調査風景(神社境内、8 T)



23 観音原遺跡調査風景(7 T)



24 観音原遺跡土層(8 T)

平成4年度市内遺跡
発掘調査報告書

発行日 平成5年3月30日
発行 新潟市教育委員会
新潟市学校町通1番町602番地1
〒951 TEL. (025)228-1000
印刷 (有)太陽印刷所
新潟市和合町2丁目4番18号
〒950 TEL. (025)265-3101